

赤谷プロジェクト 近況報告



「いきもの村たくみ小屋」
この二階にムササビが住んでいます

赤谷プロジェクトの活動拠点であるいきもの村のたくみ小屋にはムササビが住んでいます。いきもの村はかつての苗畑施設で、プロジェクトの活動拠点として再整備をしたときには、使われなくなつて20年近くが経過していました。多分、この放置されていた時代に住み始めたのでしょう。プロジェクトでこの施設を使い始めることにより、ムササビがいなくなつてしまふのではないかという心配もありましたが、プロジェクトが始まつて4年目、ムササビは元気にここで暮らし続けています。

今月は、このたくみ小屋に住むムササビについてご紹介します。



ムササビの親子3匹が写っています
お分かりですか？

ムササビの生活

ムササビは夜行性の動物で、日が沈み暗くなつてから活動を始めます。他の場所の話を聞きますと、ムササビが活動を始めるのは日没後30分ぐらゐ経つてからだそうです。ところがこのムササビは宵っ張りで、活動を始めるのは夜の9時から10時ぐらゐからです。どうしてでしょうか？理由はよく分かりませんが、これはムササビの活動を、センサーカメラを使いモニタリングしてきたことから分かつてきたことです。



巣材のスギの皮を持ち込んできた瞬間です

また、毎年、繁殖に成功しています。ムササビは1年に初夏と冬の2回繁殖をしますが、このムササビは、去年と今年の春に繁殖の成功を確認しました。去年は6月中旬に、今年5月中旬に元気な子供を見ることができました。繁殖を確認した後は、

私たちもたくみ小屋を使う際には脅かさないように気をつけています。か、しばらく経つと子供達が天井裏を駆け回る音が昼間でも聞くことができます。ようになります。

ムササビは プロジェクトの協力者

いきもの村は環境教育の拠点です。ムササビはここでの環境教育の題材になつてもらつています。運が良ければ巣で寝ている毛玉のようなムササビに出会うことができますし、センサーカメラを使って継続的にモニタリングを続けていますので、センサーカメラを使った野生動物のモニタリング手法や、センサーカメラを使うとどのようなことが分かるのかなど、実際の題材となり協力してもらつています。

野生動物を実際に見ることができ、機会が多くありません。その数少ない機会を提供してもらつているムササビは、主として夜に活動する夜行性の哺乳類動物です。前足と後足との間に飛膜があり、グライダーのように木から木へとかなり長い距離を滑空することができます。



ムササビが立った？

ムササビについて

ムササビは、主として夜に活動する夜行性の哺乳類動物です。前足と後足との間に飛膜があり、グライダーのように木から木へとかなり長い距離を滑空することができます。



食べ物、種子・果実・木の芽等を主食とします。年に2回、冬と初夏に交尾をし、春と秋に1頭から4頭の子を生みます。